

不登校の支援

横浜市立大学附属病院
児童精神科
竹内直樹

横浜市立大学附属病院児童精神科

- 昭和43年(1968年)
- 「小児精神神経科」
 - 附属病院では児童精神科(2009年)と改称
- 平成12年(2000年)
 - 精神医療センターの共用の精神病棟(50床)で、外来診療と入院診療を行う
- 高校生以下、18歳までの年齢を対象

横浜市の医療拠点 横浜市立大学附属病院と神奈川こども医療センター



横浜市
 教育委員会(教育総合相談センター、
 特別教育総合相談センター)
 こども家庭支援相談室
 児童相談所、青少年センター
 情緒障害児短期治療施設・自立支援
 施設、主任児童委員
 神奈川県警本部・少年支援センター

横浜市東部地域療育センター
 横浜市中部地域療育センター
 横浜市西部地域療育センター
 横浜市南部地域療育センター
 横浜市北部地域療育センター
 横浜市戸塚地域療育センター
 横浜市あおば地域療育センター

3

横浜市立大学附属病院



シーサイドライン 市大学医学部前 (JR新杉田、京急金沢八景)

4

横浜市立大学附属市民総合医療センター



京浜急行黄金町 市営地下鉄 坂東橋下車

アウトリーチ が基本

- 不登校の女兒
 - 問題をかかえた子どもの親が校門をくぐる時
 - 在宅の子どもを思う
 - 某児童精神科病棟から事故退院
 - 転校後に学校で暴れる 不登校 宿泊不参加？
 - 教員の苦しみがわかるかと主治医に詰問される
 - 下校時に、母親を初めて理解する
 - 地域の地図、風景を思い浮かべる

兒童精神科外来入口



兒童精神科外来



横浜市地域療育センター

• 療育センター

- (1) 児童に対する療育訓練
- (2) 児童に関する相談及び指導
- (3) 児童の医学的、心理的、教育的及び社会的な
診断、治療、検査、判定及び評価
- (4) 地域への巡回相談及び指導

－ 横浜市療育センター条例

• 未就学の乳幼児から小学校卒業まで

9

横浜市あおば地域療育センター



医療と福祉と保育・と教育の一体
相談・地域サービス 学校支援
診療
通園
児童デイサービス

横浜市青葉区黒須田34-1

10



はじめに 不登校支援の留意点

- 語り部としての専門家 臨床経験
 - 伝えたいこと 臨床経験の「御裾分け」
 - 「不登校」治療(支援)経験の経過
 - 制度・登校拒否
原因(親か本人の病気)を除去する
学校環境重視
治療の焦り
現在

13

不登校の定義(文部科学省)

- 不登校の定義
 - 年度間に連続又は断続して**30日以上**欠席した児童生徒数のうち不登校を理由とする者について調査。不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない又はしたくともできない状況にあること(ただし、**病気や経済的理由**によるものを除く)をいう。
 - 文部科学省「平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

14

臨床上的の不登校

- 不登校事例のさまざまな様態
 - 不登校の子どもたち、家族
 - 個別性
 - 多様性
 - 主訴

臨床的不登校

経過 →

通学状況	休みがち	通学渋り 不登校傾向 保健室 相談室登校	長期不登校	通学再開 遅刻早退等 時間制限通学	通常
学校との 関係	学業関心 低下 集中持続 力低下 親と早期 連絡	親子と学 校 支援方針	家庭訪問 ホーム・ス クーリング 友人との関 係 塾、適応指 導教室	学習支援 友人関係	回復・ 年齢相応

		不登校			通常の通学
	休みがち	通学渋り 不登校傾向	長期不登校	通学再開時	
内面		被害的心性、疎外感、孤立感、他責的、自責的			不登校不安
身体化		身体愁訴			
	身体症状・ 感染症・感冒	倦怠感 易疲労感 食欲低下の訴え	昼夜リズムの乱れ・ひきこもり 混乱した日常	復学にまつわる緊張・不安	
情緒		易怒性、イライラ気分			
		仮病、性格、家族 退行			
行動		ゲームに専心・学業回避			休み時間・放課後 進路
		反抗的、兄弟喧嘩	元気のなさ 意欲の低下、退行 寡黙、緘黙、家族拒否 家庭内不機嫌、暴力、反抗		

17

はじめに 不登校支援の留意点

- 不登校事例のさまざまな様態
 - 不登校の子どもたち、家族
 - 個別性
 - 多様性
 - 主訴に着目

18

支援の基本

- 常識・正論は控えめに
 - 説教臭さ 押しつけになる
- 試行錯誤・迷いに付き合う、迷って当然
 - 自分の迷いを検討する 精神科抵抗
- 「とりあえず」の具体的指示
 - スモールステップ、予期不安、総論はひかえる
 - 予測 変化しやすいところから
- 明日を信じる
 - 明日につなげる継続こそ肝心 相互に急がない
 - 目標を見出し、一致して、ゆっくりと歩みだす

19

こどもと家族 with 不登校

子ども・親に着目する
どのような親子か？



回避
休養
平常

構造改革はしない
変化のない暮らし
(長期休暇、別居、退職など)

1 不登校支援の留意点

- 留意する点
 - 1. 支援する
 - 2. 安心感
 - 3. 話し手と受け手

21

1 支援する

22

他人が家庭の中に入ること 少年サポーターの感慨

- アウトリーチのむずかしさ
- 不登校（いじめ被害）
 - 立派な邸宅を面接のために訪問した
 - 子どもと話そうとするが、家の中に入れてくれない
 - 目にふれられたくないもの
 - あるときに居間に通されて
 - 学んだこと
 - 余計なことか 土足で家に上がらない
 - 感情・プライドの尊重
 - 前向きでないときは現状維持
 - 将来の予測（ 予期不安）

23

保護者を広げる 真の保護者

- 子どもの保護者とは何か
 - 怠学（ 不安、情緒不安定、非行 ）
 - 家出後に飯場に逃げ込んだ女子高生
 - 深夜までの愚痴と情緒の不安定
 - 男性の先輩同伴
 - 少年が入院する
 - 女子の親が少年の保護者になる
 - 心の対話 憧れと約束（孫と祖父母の関係）
 - 存在そのものを認める 避難場所（直面化？）
 - 安定し生き生きする（下心で子どもに媚びない）

24

親を支える 家族の不安と子ども

- **子どもの問題で巻き込まれた両親**
 - 不登校の原因をめぐって学校と対立する
 - モンスターペアレントと風評された両親
 - 父親が妻を必死に守る
- **地域でできること**
 - 小学生転校後の三人兄弟の不登校
 - 精神病の母親によるネグレクト
 - 小学校で関係者が継続して集まる、風化させない
 - 母親が入院し、児童相談所から養護施設に、全員通学
 - 地域で排除（性加害の子どもなど）

25

安心感 安心できること

- **不登校傾向の子どもの母親「安心ってなに？」**
 - 居場所は安心できる空間かどうか
 - 不潔な安アパートの居間と自宅の子ども部屋
 - **さまざまな安心感**
 - 安心できる場所
 - 安心できる時間
 - 安心できる人 同行二人（お遍路さん）

26

話し手と受け手 支援で出会う

- 支えて、支えられる
 - ボランティア体験 電話相談のない日のさびしさ
 - 貢献願望の一時棚上げ
 - 元不登校生の不登校集会で語るハレの日（訣別と貢献）
 - 周囲を客観視する支援 「心の地図を作る」
 - 鏡にうつる自分
 - 自分自身の弱さ 似たもの同士
- 日常的・等身大の支援
 - 指示より支持
 - 自身の限界と責任
 - スタッフが顔と顔で知り合う
 - 自身が社会資源とつながる、知る
 - 顔で知り合う、固有名詞の人脈 敷居の高さ

27

2 支援の第一歩 対応よりも理解

- 症状には長い歴史がある
 - 症状を防衛した対処が潜む
 - 歴史、復習、総括する
- 話したいことから話す
 - 匿名よりも、面前で会う
 - 「いのちの電話」のよさ
 - 言外のこと

28

初期の通学刺激の反応をみる

- **対処行動歴から学ぶ**
 - 子どもの問題
 - 親、兄弟、学校、親戚、心理など相談機関
 - 試行錯誤
 - 医療を考えた理由
- **過剰な通学刺激は回避する**
 - 今までの効果的な関わりかどうか
 - マニュアル化した通学回避ではない
 - 「心の初熱」 「休むと行きにくくなる」「友人と会えない」
 - 通学刺激後の一日の生活を知る
 - 「明るい不登校」

29

不登校は誰が問題にしているか

- **親子の支援のニーズは同じか**
 - それぞれの主訴
- **問題視された理由、されない理由、事例性**
 - 不登校から派生する不安
 - 医療に近縁 「精神病の家族歴」
- **アクセスの仕方の問題点を知る**
 - 「なぜ、今、この私に相談にきたのか」

30

不登校を整理する 不登校は対処行動の破綻

- **子どもなりのストレスへの対処行動**
 - SOSとしての不登校
 - 子どもの不適應のシグナル
 - 家庭内暴力
 - **防衛・回避としての不登校**
 - 対人恐怖
 - 違う体験 少数派の選択
 - **内面の疲弊**
 - 強迫性障害、摂食障害

31

不登校は氷山の一角

- **不登校よりも非特異的な問題**
 - 「わら一本でもロバは殺せる」
- **不登校は登校再開だけがゴールか？**
 - 不登校と子どもの自殺

32